

中国語母語話者による和製漢語の意味推測と習得の関係
— 未習者と学習者の比較を通して —

小 森 和 子

Does the Performance of Semantic Inference of *Wasei Kango* Predict
the Difficulty of Japanese Acquisition by Chinese Native Speakers?:
Comparing Japanese Language Learners and Non-Learners

KOMORI Kazuko

The purpose of this study is to examine how difficult it is for Chinese native speakers learning Japanese as a second language, who have abundant knowledge of kanji/Chinese characters in their first language, to acquire the *Wasei Kango*, or Japanese-origin two-kanji compound words. For this study, 85 *Wasei Kango* words were selected from a word list with difficulty levels from N5 (lower beginner level) to N2 (pre-advanced level) of the Japanese Language Proficiency Test. The participants of this study were Japanese language learners ($N = 69$) and non-learners ($N = 94$) (those who had never learned Japanese before). Both learners and non-learners were undergraduate students at the same university in China. The research for the non-learners was conducted in December 2018 and that for the learners was conducted in November 2019.

The non-learners were given an inference test in which they were asked to write the meanings they inferred of the unknown *Wasei Kango* words in their first language. The learners were also given the same test as the acquisition test. In addition, the learners took another test, the Japanese language vocabulary test (Miyaoaka, Tamaoka & Sakai, 2011), so that they could be divided into three groups (the upper group at the N1 level, the middle group at the N2 level, and the lower group below the N2 level) based on their scores. All the descriptive answers of the inference test and the acquisition test were scored for correctness based on the judgment of three Chinese graduate students whose majors were teaching Japanese as a second language.

The results indicated that (1) the non-learners succeeded in inferring only 10% of the words while the learners' average scores were above 50%, a statistically significant difference; (2) the scores of 34 *Wasei Kango* words were statistically significant among the three different groups based on Japanese language proficiency; (3) the upper group tended to answer more correctly than the other groups for the low frequency *Wasei Kango* words and the high level *Wasei Kango* words; and (4) some *Wasei Kango* words such as “寸法” (*sunpo*,” which means size) and “齒車” (*haguruma*,” which means gear) containing kanji whose meanings are semantically different from the meanings of Chinese kanji were difficult to acquire even for learners with high Japanese proficiency.

中国語母語話者による和製漢語の意味推測と習得の関係 — 未習者と学習者の比較を通して —

小 森 和 子

要旨

本研究は、中国語母語の日本語学習者にとって、中国語の漢字の知識を用いても習得が困難な和製漢語の諸相を検討するべく、(旧)日本語能力試験の4級から2級(現在のN5からN2に相当)までの語彙難易度の85語の和製漢語(漢字二字から成る語)を対象に、日本語未習者の意味推測と、日本語学習者(N2未満からN1程度の日本語習熟度レベルの学習者)の習得について、比較検討したものである。

調査の結果、未習者が推測できた語は約1割であったのに対して、学習者では5割以上が正しく習得されていたこと、学習者では、N2未満、N2程度、N1程度の日本語習熟度の三群(下位群、中位群、上位群)の間で、習得に有意差があったこと、語彙難易度が低い語では未習者と学習者とで差がない語が多くあったこと、単漢字の形態素レベルでの日本語と中国語との意味のズレが大きい語では日本語習熟度が十分に高くなければ、習得は容易でないこと等、が示された。

キーワード：和製漢語，中国語母語話者，意味推測，日本語学習者，第二言語習得

1. はじめに

日本語の語彙は、約半数が漢語であるが(茂木・山口・丸山・田中, 2005; 沖森・木村・田中・陳・前田, 2011; 松下, 2009等), 大別すると、現代中国語でも用いられている日中同形語(以下、同形語)と、現代中国語にはない(あるいは、古典中国語では用いられていたが、現代中国語ではもはや用いられていない)日本語独自の漢語に分けられる。本稿では、後者に相当する漢語を、現代では日本語でしか用いられていないということから、和製漢語と称することとする。これまでの計量的な調査報告を概観すると、日本語の漢語の約7割は同形語であり、残りの3割は和製漢語である(松下, 2009; 熊・玉岡, 2014)。

第二言語としての日本語の語彙習得研究や日本語教育研究の分野では、これまで、中国語を母語と

する日本語学習者の語彙習得について、日本語と中国語の意味の異同が起因する同形語の習得の難易や和製漢語の習得の諸相について、調査や研究が行われてきた。その知見をまとめると、中国語に存在しない和製漢語は、学習段階において注意が向きやすく、同形語に比べると、比較的正確に、また、容易に習得できるという報告が多い。和製漢語は、学習開始当初は中国語の知識が応用しにくいいため、習得が困難な傾向があるものの、中級以上の日本語習熟度になると、徐々に習得が進むと言われている。このことは、同形語の習得の困難さとの比較で論じられることが多い。同形語は、学習開始当初は中国語の知識を援用して習得できるという容易さがあるものの、日本語と中国語の間で意味に微妙なズレがある語が少なくなく、そのズレには上級になっても気づきにくい、そのため、習得が困難である、といった知見が多く、それと比較すると、和製漢語は習得がしやすいという結論が提示されてきた（例えば、加藤, 2005; 小森・玉岡・斉藤・宮岡, 2014; 陳, 2003 など）。

また、和製漢語は、漢字で構成されていることから、構成要素の単漢字が日本語と中国語の間で意味のズレがなければ、日本語を学んだことのない者でも、正しく推測できる可能性があることが示唆されている（陳, 2009）。つまり、学習者にとって習得しやすい語であるというだけでなく、そもそも容易に意味が推測でき、学習の必要がない語である可能性もあるだろう。筆者は、この点に着目し、中国語母語話者であれば、日本語を学んだことがなくても、意味が推測できる和製漢語にはどのようなものがあり、中国語の知識で推測が困難な和製漢語にはどのようなものがあるのかを確認する必要があると考えた。

そこで、中国の大学で、日本語未習者を対象に、和製漢語の意味推測の調査を行ってきた（小森・早川・三國, 2018; 小森, 2019）。その結果、未習者でも3割程度の和製漢語の意味推測に成功することが示された。しかしながら、このときの調査大学は外国語大学であったため、学生はもともと言語適性が高い者が多く、未習でも、推測の勘が働きやすかった可能性が否定できなかった。こうした課題を踏まえ、本研究においては、日本語未習者の調査対象者を厳密に統制し、調査する目的で、2019年度に、理科系大学の学生を対象に追試したところ、推測が可能だったのは1割程度に過ぎず、推測は決して容易でないことがわかった（小森, 2020）。すなわち、一般的な中国語母語話者の場合、必ずしも、和製漢語の意味は正しく推測できるとは限らない、ということである。

意味推測は付随的な語彙学習の一形態であり、日本語習得への第一歩であることを考慮すると、未習者の和製漢語の意味推測の成否が日本語学習者の和製漢語の語彙習得の成否の説明要因となり得る、いわば、語彙特性の一つと考えることができるかもしれない。

そこで、本研究においては、次なる課題として、未習者の意味推測の成功率の高低が、日本語学習者の習得の難易と関わるか否かを検討することとした。小森（2020）で調査を行った理科系大学には、日本語を学んでいる学習者もいることから、同じ大学に属する日本語学習者を対象に、同じ対象語を用いて調査を行えば、小森（2020）の日本語未習者の推測の結果と比較することができる。すなわち、同じ大学の未習者と学習者を実証的に比較することによって、未習者の推測の成否が学習者の習得の成否に関わるか否かを明らかにすることが可能となる。未習者の推測成功率が低い語は、学習者の習得困難度が高い語として位置づけられるということである。

こうした研究を行うことによって、どのような和製漢語は中国語母語話者にとって習得が容易であるのか、どのような語は習得が困難であるのか、が明らかになる。さらに、推測成功率が習得困難度と関連があるなら、どのような語は意味推測で付随的語彙学習により習得できるのか、どのような語は意図的語彙学習が必須であるのか、について、知見が提供できると考える。

2. 先行研究

本章では、第二言語としての日本語の語彙習得研究における、和製漢語の意味推測の知見を簡単に整理する。なお、先行研究の知見については、小森（2019, 2020）にて詳しくまとめているので、そちらを参照されたい。

まず、最初に断っておくが、日本語教育においては、文化庁（1978）が行った漢語の分類と命名が比較的よく用いられる。文化庁では、同形語については、日本語と中国語とで意味がほぼ同義の同形語をS語（Same語）、二言語間で一部意味が一致するが、一部にズレがある同形語をO語（Overlapping語）、二言語間で意味が全く異なる同形語をD語（Different語）、と三分類している。さらに、和製漢語をN語（Nothing語）と称している。ここで言及する先行研究においても、その多くで、S語、O語、D語、N語が用いられているため、本章においても、N語という用語も併用して、和製漢語を指すものとして用いる。

N語の意味推測に関する有益な知見としては、陳（2009）が挙げられる。陳（2009）は、自身の日本語学習者としての経験や中国語との比較対照分析の結果から、N語を、推測が容易なN①語（「既婚」、「敗戦」、「強気」、「買物」）と、推測が困難なN②語（「我慢」、「欲張」、「派手」、「怪我」）に分類した。その上で、台湾の日本語未習者15名を対象に、これらの8語の意味推測調査を行った。その結果、N①語は15名中10名以上が正答できたのに対して、N②語は誰も正答できなかった。この知見は示唆に富むものであるが、N①とN②の弁別が、陳（2009）自身の内省や基準に基づくものであるため、語彙特性のどのような点が、推測を容易に、あるいは、困難にしているのか、明らかになっていない。

また、桑原（2012）の知見も示唆に富んでおり、参考になる。桑原（2012）では、200語の漢字二字熟語（N語以外も含まれる）について、非漢字圏学習者3名を対象に、意味推測の調査を行った。調査では、対象語を単体で提示し、推測した意味を対象者の母語で記述させるという方法で行われた。その結果、非漢字圏学習者は前項漢字と後項漢字を統語的に分析し、どちらが意味の主要部であるかを考えたり、既知の漢字の知識を援用したりして、推測を行っていることが明らかになった。例えば、「破線」の場合、前項漢字を使った語には「破る」という動詞があり、後項漢字の「線」は名詞であることから、「破」を当該熟語の意味の主要部だと判断し、「線を破る」という推測を行っていた。この研究は、非漢字圏学習者を対象としているが、同様の推測過程は中国語母語話者にも認められる可能性が高い。すなわち、漢字に関する既有的知識、特に、中国語の知識を活用し、語構成を踏まえて、意味推測を行う可能性が示唆されよう。

最後に、本研究の基礎となる筆者自身の研究について簡潔に示す。まず、小森他（2018）では、中国の外国語大学に入学したばかりの学部1年生の日本語未習者42名を対象に、小森・早川・李・玉岡（2017）の日中対照漢字二字熟語データベースから抽出した（旧）日本語能力試験出題基準の4級から2級までの74語を用いて、意味推測調査を行った。その結果、3割程度の語において、正しく意味推測ができていたこと、語彙の難易度（出題基準の級）が低い語ほど推測がしやすいこと、が示された。

また、小森（2019）では、小森他（2018）の調査結果を詳細に検討するべく、推測結果を分析し、どのような誤った推測があるか、誤った推測が起こった理由は何か、含まれる漢字の意味の日本語と中国語との相違がどのように関わるかなどについて、考察を行った。その結果、対象語とその中国語相当語が単漢字のいずれか一方が同じであり、その単漢字の中国語の意味が対象語全体の意味に相当する語は推測が容易であることがわかった。例えば、「遅刻」の場合、中国語相当語は“迟到”で、「遅」と“迟”が同じ漢字であるが（以下、簡体字には“ ”を付して示す）、中国語の“迟”は「<比规定的时间或合适的时间靠后>（<決められた時間や適切な時間よりも遅くなる>）」という「遅刻」の意味に相当する。このように、中国語には、単漢字が形態素として機能し、日本語の漢字二字の和製漢語全体の意味を表すものが少なくなく、そのような和製漢語は推測が容易だということが、実証的に示された。

ただし、小森他（2018）や小森（2019）の調査対象者は、外国語大学の学生で言語適性が高い可能性があることや、対象語の中に中国でも近年見かけるようになった語も含まれていることから、注意深く対象者を選定し、対象語の抽出を精査した上で、未習者と学習者の相違について検討する必要があるということが、課題として残った。

3. 研究課題と調査方法

3.1 研究課題

先行研究の知見や、筆者自身のこれまでの研究の流れを踏まえ、本研究では、以下の4点を、本研究の課題として取り組むこととする。

- 課題1. 中国語母語話者で、日本語を学んだことがない者（以下、未習者）はどの程度正確に和製漢語の意味を推測できるのか、
- 課題2. 未習者は、和製漢語の意味をどの程度推測しやすいと判定するのか、
- 課題3. 未習者の和製漢語の意味推測の成否は、日本語学習者（以下、学習者）の習得の成否と関係があるのか、
- 課題4. 未習者の推測や学習者の習得に関わる和製漢語の語彙特性には、どのような特徴があるのか。

3.2 課題の検討方法

課題の検討方法は、小森他 (2018)、小森 (2019)、小森 (2020) に倣う。また、未習者の意味推測結果については、小森 (2020) を援用することとし、今回の調査は学習者のみを対象とする。すなわち、今回新たに調査を行う学習者の結果を、小森 (2020) の未習者の結果と比較して、総合的に分析を進める。このことから、調査対象語は小森 (2020) と同一のもの、また、調査方法も小森 (2020) に準じる。詳細については、以下で適宜示していく。

3.2.1 調査対象語

調査対象語の抽出手順に関する検討事項や抽出方法については、小森他 (2018)、小森 (2019)、小森 (2020) に詳述してあるため、ここでは簡潔に示しておく。

第一ステップ：小森他 (2017) の日中対照漢字二字熟語データベース (以下、データベース)⁽¹⁾ に採録されている全 2,078 語に対して、日本語を学んだことがない中国語母語話者 3 名に、中国語で使用されているか否かの判定を行ってもらい、2 名以上が中国語で使用されていない和製漢語だと判断した 562 語を和製漢語として同定した⁽²⁾。

第二ステップ：562 語の中から日本語の語義が三つまでの語、かつ、数詞の類 (例えば「一日」)、日本の社会文化的知識と関わるような語 (例えば、「県庁」や「上京」)、同じ漢字による畳語 (例えば、「時々」や「軽々」) を除き、残った 85 語を調査対象語として抽出した。以下がその 85 語である。

切手、交番、時計、荷物、半分、病気、風呂、部屋、弁当、屋上、切符、格好、急行、下宿、手間、退院、息子、割合、安易、植木、王女、改札、勝手、我慢、為替、気配、今回、支店、祝日、真剣、役人、段階、貯金、月日、強気、余分、都合、発想、風船、踏切、包丁、真似、大変、無料、派手、免許、面倒、役者、騒音、厄介、行方、余計、手品、乱暴、両替、割引、上着、子供、大切、見事、立派、案内、彼女、気分、残念、承知、背中、駄目、返事、相手、芝居、親類、寸法、粗末、退屈、役割、頂上、仲間、苦手、歯車、不潔、見本、郵便、一緒、今度

(1) このデータベースは、(旧) 日本語能力試験の 4 級から 2 級までの漢字二字熟語 2,078 語について、表記、読み、語彙級、使用頻度、品詞、語義、文化庁 (1978) による漢語の分類、中国語の有無 (中国語にもある場合は、中国語の表記や語義等の情報)、日中音韻類似度、日中書字異形度等を掲載した一覧である。

(2) 小森他 (2018)、および小森 (2019) では、データベースの 2,078 語について、『現代汉语词典 (第 6 版)』、および『現代汉语规范词典 (第 3 版)』での採録を確認し、いずれにも採録がない 548 語を和製漢語とした。しかし、中国語母語話者や中国語のコーパスで確認すると、『現代汉语词典 (第 6 版)』や『現代汉语规范词典 (第 3 版)』に採録があっても、現代中国語ではほとんど使用されていない語も複数あることがわかった。そこで、小森 (2020) では、辞書の採録のみを基準とするのではなく、未習者の主観判定を取り入れることとした。

3.2.2 調査方法

課題1の、未習者の意味推測の成否を調査するための方法は、調査対象語（例えば、「財布」）を簡体字（“財布”）で示し、推測した意味を中国語で書いてもらうという記述式のテスト（以下、和製漢語テスト）である。なお、調査対象語を簡体字で示すのは、未習者への配慮と、本研究が意味の推測に焦点を当てるためである。日本語を学んだことがない中国語母語話者に日本字体で調査対象語を示すと、日本字体の漢字が中国語の簡体字の何に相当するのか理解できない可能性がある。また、日本字体と簡体字の異形度が大きい場合は、書字レベルの推測が最初に行われる。そのため、日本字体で調査対象語を示すと、対象者が意味の推測に失敗した場合、日本字体の書字の推測はできたが、意味が推測できなかったのか、それとも、書字そのものの推測ができなかったのか、判別できない。そこで、本研究では、書字は理解できるが、意味においては未知の日本語をどの程度意味推測できるかを検討するために、簡体字で示すこととする。

課題2の、未習者の意味推測のしやすさに関する評定を検討する方法としては、上記の意味推測テストの終了後に、簡体字で記した調査対象語とその中国語相当語をペアで示し（“財布”―“钱包”）、調査対象語の意味がどのぐらい推測しやすいかを、5段階で評定（以下、推測評定値）してもらう。なお、中国語相当語は、中国人留学生の大学院生4名（専門は中国語学（1名）、日本語学（3名））に、調査対象語の日本語に相当すると思う中国語を記述してもらい、3名以上が一致した語から選び、決定することとした。なお、推測評定値は未習者にのみ実施し、学習者には行わない。

課題3の、未習者の意味推測の成否と学習者の習得度合いに関しては、未習者に行った上記の和製漢語テストを学習者に実施し、その結果を比較する。ただし、対象語の提示は、学習者には日本字体で行う。しかし、推測結果の比較の妥当性を考慮し、解答は、未習者と同様、中国語で行ってもらうこととする。

課題4の、未習者の推測や学習者の習得に関わる和製漢語の語彙特性に関する検討は、調査対象語抽出の際の第一次資料となるデータベースに採録されている情報、例えば、語彙難易度や使用頻度、さらに、未習者の和製漢語テストの各語の正答率や、推測評定値、さらに、学習者の各語の正答率などを基に、記述的に考察していく。

4. 調査概要

4.1. 調査対象者

未習者への調査は2018年12月に、学習者への調査は2019年11月に、同じ中国国内の理科系の大学で実施した。未習者の調査対象者は94名で、日本語を学んだことがない学部1年生、2年生である。一方、学習者は、日本語を学んでいる学部1年生から4年生までの69名である。調査実施時の平均日本語学習歴は2年3か月であった。69名のうち、日本語能力試験（JLPT）のN1に合格している者は11名、N2に合格している者は22名であった。残りの36名は未受験者、あるいはN1やN2の不合格者であった。

本研究では、学習者の調査対象者を日本語習熟度に基づいて群分けして分析を進める予定であったため、学習者に対しては、簡易的な日本語テストを実施した。用いたテストは、宮岡・玉岡・酒井(2011)の語彙テスト(以下、日本語テスト)である。このテストは、名詞、形容詞、動詞、複合辞(「～にわたって」「～だけあって」等)の知識を問う問題が各12問、計48問から成る。複合辞の問題項目を除く36問については、和語、漢語、外来語が12語ずつあり、語種のバランスも整っている。さらに、複合辞を含めた48問は、(旧)日本語能力試験の出題基準級(語彙級、文法級)が1級(現在のN1)と2級(現在のN2)が半数の24問ずつである。出題形式は、「彼のスピーチは、結婚式に()内容の、いいスピーチだった」のような空所補充形式で、四つの選択肢から一つ選ぶ多肢選択式である。なお、宮岡他(2011)が中国で行った調査($N=281$)では、テストの信頼性係数(クロンバックの α 係数)は $\alpha = .737$ であった。また、項目の困難度(全員が不正解なら0、全員が正解なら1となる)は0.085 ~ 0.986(平均0.468、標準偏差0.252)で、易しい項目から難しい項目まで幅広く含まれており、学習者を語彙知識の高い者と低い者とに弁別するのに有用なテストである。

4.2 手続き

はじめに、未習者では上述の記述式の和製漢語テストを実施し、その後、推測評定値の調査を行った。学習者に対しては、同じ記述式の和製漢語テストを実施し、その後、日本語テストを実施した。和製漢語テストについては、未習者も学習者も解答は中国語で記述するように教示した。和製漢語テストの所要時間は、おおむね、30分程度であった。その後行った未習者の推測評定値の調査には20分程度を要した。また、学習者の日本語テストは15分程度であった。いずれも、最後にフェースシートへの記入と謝礼の配布を行い、全部で60分程度で調査を終えた。

5. 結果と考察

ここでは、小森(2020)の未習者の結果と共に、今回の学習者の結果を示す。以下、断りのない限り、未習者の結果は小森(2020)の結果の転載である。なお、小森(2020)では、未習者のみを対象としていたため、今回の和製漢語テストを意味推測テストと呼んでいたが、本稿では、未習者に実施したテストも、和製漢語テストと呼ぶ。

5.1 日本語テストの結果

日本語テストは学習者のみが受験しているテストである。全48問について、1問1点で採点したところ、69名の平均は24.64点(満点は48点)、標準偏差は7.88点、最低点は13点、最高点は41点であった。

この結果を基に、平均 \pm 0.5SDの得点区間を中位群と定め、それ以下を下位群、それ以上を上位群

として、69名をできるだけ均等な数になるように、群分けした(表1)。なお、確認のため、3群の日本語テストの得点について、一元配置の分散分析を行ったところ、その差は有意であった [$F(2,66)=243.695, p<.001$]。

表1 日本語テストの結果

	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>	<i>N</i>
下位群	16.67	1.93	13	19	24
中位群	23.71	2.49	20	27	24
上位群	34.81	3.71	28	41	21
全体	24.64	7.88	13	41	69

注1:*M*は平均, *SD*は標準偏差, *Min*は最低, *Max*は最高, *N*は人数を示す。

注2:満点は48点である。

なお、この日本語テストがN2とN1が半数ずつであることを考えると、正答率が35%程度の下位群はN2には届かないレベルだと言えよう。また、正答率が49%の中位群ではN2相当のレベルであり、正答率が75%の上位群ではN2の知識は十分に備わっており、N1に近い、あるいはN1相当のレベルだと考えられる。なお、中位群は半数の12名がN2合格者である。また、上位群の21名中、約半数の11名はN1合格者、残りの10名はN2合格者である。こうしたJLPTの合格状況を見ても、下位群はN2未滿、中位群はほぼN2相当、上位群はほぼN1相当、と言えよう。

5.2 和製漢語テストの得点

次に、和製漢語テストは中国語による記述式であったので、調査対象者が書いた解答について、それぞれ正答か否かを判定する必要がある。この判定方法は小森(2020)に倣い、未習者も学習者も同様である。

具体的には、対象語と調査対象者の実際の解答の中国語を一つずつペアにして、同義と言えるかどうか、中国語母語話者3名(日中対照研究や日本語教育学が専門の中国人留学生の大学院生)に判定(以下、同義性判定)を依頼した。例えば、調査対象語の「不潔」に対する意味推測の解答には、“不干淨”(「清潔でない」の意)、“不貞潔”(「貞操観念がない」の意)、“不雅”(「俗悪」の意)などあった。そこで、「不潔」と“不干淨”、“不潔”と“不貞潔”、“不潔”と“不雅”のペアを示し、それぞれに対して、同義である、あるいは、ほぼ同義であると思うものに「○」、全く意味が異なると思うものに「×」、部分的に意味が重なる、あるいは、特定の文脈では意味が近いと思うものに「△」の判定をしてもらった。判定は3名が独立に行い、その後、3名の判定結果を統合し、2名以上が一致している判定を採用した。上記の「不潔」の場合であれば、“不干淨”は○、“不貞潔”は△、“不雅”は×と判定された。

最後に、「○」は1点、「△」は0.5点、「×」と無答は0点として、調査対象者のそれぞれの意味

推測の解答を得点化し、全 85 語（すなわち、85 点満点）について、調査対象者の得点を計算した。その結果、表 2 のようになった。

表 2 和製漢語テストの結果（未習者・学習者）

	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>	<i>N</i>
未習者	9.65	3.12	3	22	94
学習者	44.35	11.35	14	72.5	69
全体	24.35	18.84	3	72.5	163

注1:*M*は平均, *SD*は標準偏差, *Min*は最低, *Max*は最高, *N*は人数を示す。

注2:満点は85点である。

まず、未習者は、平均が9.65点で、11.35%の正答率であったのに対して、学習者の平均は44.35点で、52.18%の正答率であった。この差は統計的にも有意であった [$t(161)=28.233, p<.001$]。未習者も学習者も中国語母語話者であるが、日本語の学習経験の有無によって、これほどまでに差があるということである。このことから、和製漢語は漢語に見えるものの、未習者には推測も理解も容易でなく、一つひとつ学習する必要がある語だと言えよう。

次に、学習者の3群についての比較を行ったところ、以下ようになった。

表 3 和製漢語テストの結果（学習者3群別）

	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>	<i>N</i>
下位群	36.40	8.82	14	48	24
中位群	42.73	7.73	22	60.5	24
上位群	55.29	8.63	40	72.5	21
全体	44.35	11.35	14	72.5	69

注1:*M*は平均, *SD*は標準偏差, *Min*は最低, *Max*は最高, *N*は人数を示す。

注2:満点は85点である。

下位群の平均は36.40点で正答率は42%程度だが、中位群で42.73点と正答率がちょうど50%である。N2未満の下位群とN2程度の中位群では和製漢語については、まだ習得途上にあると言えようである。一方、上位群を見ると、55.29点で正答率は65%を超える。N1に近い日本語習熟度の上位群は、和製漢語の習得が進んでいると言えよう。

次に、この3群の得点の差が統計的に有意であるかどうか確認したところ、1%水準で有意であった [$F(2,66)=29.023, p<.001$]。また多重比較の結果、下位群と中位群、下位群と上位群、中位群と上位群のいずれの群間においてもその差が有意であった。このことから、和製漢語の習得は日本語習熟度に比例して進んでいくということが言えよう。

さらに、未習者1群と既習者3群の計4群の結果をまとめると、表4の通りとなった。この4群についても、得点の差が統計的に有意であるかどうか確認したところ、1%水準で有意であった [$F(3,159)=495.378, p<.001$]。また、多重比較の結果、未習者と下位群、未習者と中位群、未習者と上位群、下位群と中位群、下位群と上位群、中位群と上位群のいずれの群間においてもその差は有意であった。

表4 和製漢語テストの結果（未習者+学習者3群）

	<i>M</i>	<i>SD</i>	<i>Min</i>	<i>Max</i>	<i>N</i>
未習者	9.65	3.12	3	22	94
学習者・下位	36.40	8.82	14	48	24
学習者・中位	42.73	7.73	22	60.5	24
学習者・上位	55.29	8.63	40	72.5	21
全体	24.35	18.84	3	72.5	163

注1:*M*は平均, *SD*は標準偏差, *Min*は最低, *Max*は最高, *N*は人数を示す。

注2:満点は85点である。

5.3 和製漢語テストの各語の結果

5.3.1 未習者と学習者の比較

次に、85語の各語について、未習者と学習者の正答者数を基に、通過率を求めたところ、表5、表6の通りとなった（対象語数が多いため、表を二分割した）。表5と表6の対象語の語順は未習者の通過率の降順である。なお、通過率とはテストングで用いられる用語で、テストの「項目に正答した受験者の全受験者に対する比率」で表される困難度の指標の一つである（野口・大隅, 2014:31）。全員が不正解であれば0.00となり、全員が正解であれば1.00でとなる。通過率は正答率とも呼ばれることがあるが、正答率という用語は85点満点のテストにおける得点の割合と混同しやすい（例えば、85点満点のテストで51点だったとすると、正答率は60%である）。そこで、本稿では、通過率という用語を用いることとする。

表5、表6からわかるように、85語の中で、すべての語において学習者の方が通過率が高かったわけではなく、「不潔」（未習者通過率0.89, 学習者通過率0.68, 以下、同様の順番で示す）、「段階」（0.84, 0.58）、「親類」（0.72, 0.68）の3語は、未習者の方が通過率が高かった。残りの82語は学習者の方が通過率が高かった。ただし、「親類」は、統計的な有意差はなかったことから、未習者の方が学習者より有意に通過率が高かったのは、「不潔」と「段階」の2語だと言えよう。

また、85語の通過率について、未習者と学習者の差が統計的に有意か否かを確認したところ、有意だったのは76語で、有意でなかったのは9語であった。有意でなかったということは、未習者は学習経験がないにもかかわらず、学習者と同程度の通過率であったということである。有意でなかつ

た9語は、まず、上に示した未習者の方が学習者より通過率が高かった「親類」(0.72, 0.68)で、そのほかは学習者の方が未習者より通過率が高かった語で、「貯金」(0.59, 0.69), 「屋上」(0.59, 0.69), 「王女」(0.56, 0.64), 「余分」(0.50, 0.51), 「背中」(0.24, 0.33), 「月日」(0.10, 0.17), 「寸法」(0.04, 0.06), 「歯車」(0.04, 0.10), である。このうち、未習者も学習者も同程度に通過率が高く、0.5を超えているのは、「親類」, 「貯金」, 「屋上」, 「王女」, 「余分」である。これらの語は、中国語母語話者であれば、未習の者であっても、推測が比較的容易であるということである。一方、「寸法」や「歯車」などは、学習者であってもほとんど習得ができていないことから、学習者にとっても未知の語であったと考えられよう。なお、未習者と学習者の間で有意差が認められなかった理由については、「5.3.3 未習者と学習者の3群の比較」でも同様の結果となっていることから、そちらで考察を述べることにする。

さらに、各語について、未習者の推測評定値も求めてあるので、未習者の通過率、学習者の通過率、および推測評定値の関係を検討するべく、相関を求めたところ、未習者の通過率と推測評定値の間には正の強い相関が認められた [$r=.739$, $df=85$, $p<.001$]。未習者にとっては、推測がしやすいと思う語については、比較的正しく推測ができるということであろう。一方、学習者の通過率と未習者の推測評定値の間の相関は非常に弱かった [$r=.204$, $df=85$, $p=.061$]。学習者が習得できるか否かは、未習者にとって推測しやすい語であるか否かとは、ほとんど関係がないということになる。つまり、未習者が中国語の知識から推測しにくいと思った語であっても、学習者は正しく習得できる場合がある、ということになる。ただし、下位群、中位群、上位群の3群のそれぞれの通過率について、推測評定値との相関を確認すると、下位群では正の弱い相関が認められたが [$r=.259$, $df=85$, $p<.05$]、中位群 [$r=.193$, $df=85$, $p=.114$] と上位群 [$r=.114$, $df=85$, $p=.298$] では、相関は認められなかった。このことから、日本語習熟度が低く、習得が不十分な段階の学習者の習得の成否は、未習者の推測評定値からある程度予測できるということである。このことは、日本語習熟度が低い学習者は、習得ができていない未知語について、中国語の知識を転用しながら、意味推測して処理している可能性が示唆される。

表5 各語の未習者と学習者の通過率比較（未習者通過率の降順）その1

対象語	未習者通過率		既習者通過率		t値	p値
	M	SD	M	SD		
不潔	0.89	0.31	0.68	0.47	3.477	0.001
段階	0.84	0.37	0.58	0.50	3.847	0.000
親類	0.72	0.45	0.68	0.46	0.586	0.559
支店	0.60	0.49	0.86	0.35	-3.717	0.000
貯金	0.59	0.50	0.69	0.46	-1.353	0.178
屋上	0.59	0.50	0.69	0.46	-1.353	0.178
王女	0.56	0.50	0.64	0.48	-0.946	0.346
病気	0.52	0.50	0.99	0.06	-7.751	0.000
余分	0.50	0.50	0.51	0.50	-0.091	0.928
今回	0.38	0.49	0.88	0.32	-7.411	0.000
半分	0.36	0.48	0.86	0.35	-7.180	0.000
部屋	0.33	0.47	0.99	0.12	-11.251	0.000
弁当	0.27	0.44	0.97	0.17	-12.527	0.000
承知	0.24	0.43	0.81	0.39	-8.587	0.000
上着	0.24	0.43	0.74	0.42	-7.327	0.000
背中	0.24	0.43	0.33	0.47	-1.241	0.217
祝日	0.17	0.38	0.77	0.38	-9.964	0.000
安易	0.15	0.36	0.46	0.50	-4.673	0.000
時計	0.12	0.32	0.87	0.22	-16.681	0.000
退院	0.11	0.31	0.72	0.44	-10.385	0.000
強気	0.11	0.31	0.32	0.47	-3.477	0.001
発想	0.10	0.30	0.31	0.46	-3.627	0.000
免許	0.10	0.30	0.45	0.49	-5.751	0.000
月日	0.10	0.30	0.17	0.38	-1.473	0.143
息子	0.09	0.28	0.87	0.28	-17.657	0.000
残念	0.09	0.28	0.94	0.24	-20.599	0.000
粗末	0.07	0.26	0.19	0.39	-2.210	0.029
下宿	0.05	0.23	0.22	0.42	-3.238	0.001
彼女	0.04	0.20	0.91	0.28	-22.837	0.000
寸法	0.04	0.20	0.06	0.24	-0.448	0.655
歯車	0.04	0.20	0.10	0.30	-1.482	0.140
騒音	0.04	0.20	0.68	0.46	-11.944	0.000
子供	0.03	0.18	0.94	0.24	-28.201	0.000
切手	0.02	0.15	0.72	0.45	-14.197	0.000
気配	0.02	0.15	0.14	0.32	-3.123	0.002
無料	0.02	0.15	0.82	0.38	-18.472	0.000
大切	0.02	0.15	0.91	0.29	-25.689	0.000
頂上	0.02	0.15	0.33	0.47	-6.095	0.000
一緒	0.02	0.15	0.94	0.24	-30.799	0.000
今度	0.02	0.15	0.94	0.24	-30.799	0.000
郵便	0.02	0.15	0.29	0.29	-7.767	0.000
立派	0.01	0.10	0.54	0.40	-12.326	0.000

表6 各語の未習者と学習者の通過率比較（未習者通過率の降順）その2

対象語	未習者通過率		既習者通過率		t値	p値
	M	SD	M	SD		
急行	0.01	0.10	0.07	0.23	-2.301	0.023
役者	0.01	0.10	0.29	0.46	-5.734	0.000
行方	0.01	0.10	0.44	0.50	-8.194	0.000
割引	0.01	0.10	0.84	0.37	-20.763	0.000
返事	0.01	0.10	0.62	0.46	-12.377	0.000
相手	0.01	0.10	0.90	0.30	-26.341	0.000
仲間	0.01	0.10	0.34	0.39	-7.879	0.000
苦手	0.01	0.10	0.80	0.37	-19.760	0.000
交番	0.00	0.00	0.15	0.32	-4.554	0.000
荷物	0.00	0.00	0.84	0.36	-22.750	0.000
風呂	0.00	0.00	0.57	0.28	-19.367	0.000
切符	0.00	0.00	0.77	0.43	-17.537	0.000
格好	0.00	0.00	0.20	0.34	-5.868	0.000
手間	0.00	0.00	0.17	0.32	-5.103	0.000
割合	0.00	0.00	0.29	0.46	-4.673	0.000
植木	0.00	0.00	0.15	0.35	-4.266	0.000
改札	0.00	0.00	0.32	0.47	-6.592	0.000
勝手	0.00	0.00	0.51	0.50	-9.776	0.000
我慢	0.00	0.00	0.91	0.28	-31.223	0.000
為替	0.00	0.00	0.09	0.28	-2.974	0.003
真剣	0.00	0.00	0.83	0.38	-21.001	0.000
役人	0.00	0.00	0.22	0.42	-5.078	0.000
都合	0.00	0.00	0.53	0.45	-11.339	0.000
風船	0.00	0.00	0.23	0.43	-5.294	0.000
踏切	0.00	0.00	0.04	0.21	-2.054	0.042
包丁	0.00	0.00	0.42	0.47	-8.597	0.000
真似	0.00	0.00	0.19	0.38	-4.757	0.000
大変	0.00	0.00	0.64	0.32	-19.440	0.000
派手	0.00	0.00	0.27	0.28	-9.331	0.000
面倒	0.00	0.00	0.61	0.49	-12.018	0.000
厄介	0.00	0.00	0.23	0.43	-5.294	0.000
余計	0.00	0.00	0.38	0.49	-7.668	0.000
手品	0.00	0.00	0.10	0.30	-3.238	0.001
乱暴	0.00	0.00	0.26	0.43	-5.953	0.000
両替	0.00	0.00	0.25	0.43	-5.785	0.000
見事	0.00	0.00	0.27	0.44	-5.887	0.000
案内	0.00	0.00	0.52	0.39	-13.064	0.000
気分	0.00	0.00	0.68	0.45	-14.846	0.000
駄目	0.00	0.00	0.58	0.50	-11.317	0.000
芝居	0.00	0.00	0.55	0.47	-11.354	0.000
退屈	0.00	0.00	0.31	0.46	-6.538	0.000
役割	0.00	0.00	0.19	0.27	-6.538	0.000
見本	0.00	0.00	0.26	0.41	-6.210	0.000
合計	12.23	3.73	44.35	11.35	-28.233	0.000

5.3.2 学習者の3群の比較

5.3.2.1 計量的分析とその結果

次に、学習者の3群のそれぞれについて、各語の通過率を求めたところ、表7、表8の通りとなった。表7と表8に示した対象語の順番は、前掲の表5、表6と同様に、未習者の通過率の降順である。

表7 各語の学習者の3群の通過率比較（未習者通過率の降順）その1

対象語	下位群通過率		中位群通過率		上位群通過率		F比	p値
	M	SD	M	SD	M	SD		
不潔	0.50	0.51	0.67	0.48	0.90	0.30	4.627	0.013
段階	0.54	0.51	0.54	0.51	0.67	0.48	0.454	0.637
親類	0.67	0.46	0.63	0.49	0.76	0.44	0.503	0.607
支店	0.75	0.44	0.96	0.20	0.86	0.36	2.141	0.126
貯金	0.54	0.51	0.65	0.48	0.90	0.30	3.915	0.025
屋上	0.60	0.49	0.63	0.49	0.86	0.36	2.085	0.132
王女	0.67	0.48	0.63	0.49	0.62	0.50	0.065	0.937
病気	0.98	0.10	1.00	0.00	1.00	0.00	0.936	0.397
余分	0.50	0.51	0.46	0.51	0.57	0.51	0.280	0.757
今回	1.00	0.00	0.79	0.41	0.86	0.36	2.743	0.072
半分	0.79	0.41	0.92	0.28	0.86	0.36	0.740	0.481
部屋	0.96	0.20	1.00	0.00	1.00	0.00	0.936	0.397
弁当	0.92	0.28	1.00	0.00	1.00	0.00	1.957	0.149
承知	0.58	0.50	0.88	0.34	1.00	0.00	8.163	0.001
上着	0.79	0.41	0.69	0.46	0.74	0.37	0.368	0.693
背中	0.13	0.34	0.54	0.51	0.33	0.48	5.189	0.008
祝日	0.65	0.43	0.73	0.42	0.95	0.15	4.213	0.019
安易	0.29	0.46	0.46	0.51	0.67	0.48	3.338	0.042
時計	0.90	0.21	0.83	0.24	0.88	0.22	0.512	0.602
退院	0.77	0.42	0.60	0.49	0.79	0.41	1.226	0.300
強気	0.17	0.38	0.29	0.46	0.52	0.51	3.551	0.034
発想	0.21	0.41	0.35	0.48	0.38	0.50	0.934	0.398
免許	0.29	0.46	0.44	0.50	0.64	0.45	3.115	0.051
月日	0.17	0.38	0.13	0.34	0.24	0.44	0.491	0.615
息子	0.88	0.27	0.75	0.36	1.00	0.00	5.002	0.009
残念	0.92	0.28	0.96	0.20	0.95	0.22	0.212	0.809
粗末	0.08	0.28	0.13	0.34	0.38	0.50	3.998	0.023
下宿	0.21	0.41	0.25	0.44	0.19	0.40	0.120	0.887
彼女	0.92	0.28	0.88	0.34	0.95	0.22	0.412	0.664
寸法	0.04	0.20	0.08	0.28	0.05	0.22	0.212	0.809
歯車	0.00	0.00	0.13	0.34	0.19	0.40	2.402	0.098
騒音	0.46	0.51	0.75	0.42	0.86	0.36	5.151	0.008
子供	0.88	0.34	0.96	0.20	1.00	0.00	1.702	0.190
切手	0.63	0.49	0.63	0.49	0.95	0.22	4.234	0.019
気配	0.04	0.14	0.04	0.20	0.36	0.45	8.743	0.000
無料	0.69	0.46	0.83	0.38	0.95	0.22	2.849	0.065
大切	0.79	0.41	0.96	0.20	0.98	0.11	3.092	0.052
頂上	0.19	0.38	0.23	0.42	0.62	0.50	6.641	0.002
一緒	0.88	0.34	0.96	0.20	1.00	0.00	1.702	0.190
今度	0.92	0.28	0.96	0.20	0.95	0.22	0.212	0.809
郵便	0.33	0.35	0.25	0.26	0.29	0.25	0.492	0.613
立派	0.52	0.43	0.54	0.39	0.55	0.38	0.028	0.972

表8 各語の学習者の3群の通過率比較（未習者通過率の降順）その2

対象語	下位群通過率		中位群通過率		上位群通過率		F比	p値
	M	SD	M	SD	M	SD		
急行	0.04	0.14	0.02	0.10	0.17	0.37	2.679	0.076
役者	0.38	0.49	0.25	0.44	0.24	0.44	0.636	0.533
行方	0.21	0.41	0.46	0.51	0.69	0.46	6.093	0.004
割引	0.71	0.46	0.83	0.38	1.00	0.00	3.800	0.027
返事	0.27	0.44	0.71	0.44	0.93	0.18	17.590	0.000
相手	0.79	0.41	0.96	0.20	0.95	0.22	2.366	0.102
仲間	0.23	0.36	0.33	0.35	0.48	0.43	2.366	0.102
苦手	0.73	0.39	0.77	0.42	0.90	0.26	1.392	0.256
交番	0.15	0.35	0.17	0.35	0.14	0.28	0.036	0.965
荷物	0.85	0.35	0.77	0.42	0.90	0.30	0.803	0.452
風呂	0.48	0.23	0.56	0.27	0.67	0.33	2.568	0.084
切符	0.67	0.48	0.79	0.41	0.86	0.36	1.187	0.312
格好	0.15	0.31	0.15	0.28	0.33	0.40	2.372	0.101
手間	0.08	0.24	0.10	0.25	0.33	0.40	4.649	0.013
割合	0.17	0.38	0.13	0.34	0.62	0.50	9.957	0.000
植木	0.13	0.30	0.13	0.34	0.21	0.41	0.478	0.622
改札	0.17	0.38	0.33	0.48	0.48	0.51	2.565	0.085
勝手	0.21	0.41	0.50	0.51	0.86	0.36	12.422	0.000
我慢	0.83	0.38	0.92	0.28	1.00	0.00	1.990	0.145
為替	0.13	0.34	0.00	0.00	0.14	0.36	1.790	0.175
真剣	0.71	0.46	0.83	0.38	0.95	0.22	2.388	0.100
役人	0.17	0.38	0.13	0.34	0.38	0.50	2.506	0.089
都合	0.35	0.45	0.58	0.43	0.67	0.43	3.115	0.051
風船	0.08	0.28	0.13	0.34	0.52	0.51	8.826	0.000
踏切	0.08	0.28	0.00	0.00	0.05	0.22	0.993	0.376
包丁	0.15	0.31	0.46	0.49	0.69	0.46	9.333	0.000
真似	0.06	0.22	0.15	0.35	0.38	0.50	4.485	0.015
大変	0.56	0.31	0.65	0.28	0.74	0.37	1.700	0.191
派手	0.21	0.25	0.23	0.29	0.38	0.27	2.623	0.080
面倒	0.29	0.46	0.58	0.50	1.00	0.00	17.256	0.000
厄介	0.04	0.20	0.17	0.38	0.52	0.51	9.558	0.000
余計	0.17	0.38	0.19	0.38	0.86	0.36	23.964	0.000
手品	0.00	0.00	0.08	0.28	0.24	0.44	3.784	0.028
乱暴	0.15	0.35	0.15	0.35	0.52	0.49	6.741	0.002
両替	0.08	0.28	0.25	0.44	0.45	0.47	4.669	0.013
見事	0.04	0.20	0.13	0.34	0.69	0.46	23.072	0.000
案内	0.50	0.42	0.54	0.39	0.52	0.37	0.068	0.934
気分	0.50	0.49	0.71	0.44	0.86	0.32	3.993	0.023
駄目	0.29	0.46	0.67	0.48	0.81	0.40	8.005	0.001
芝居	0.73	0.44	0.44	0.47	0.48	0.46	2.825	0.067
退屈	0.04	0.20	0.33	0.48	0.60	0.49	10.254	0.000
役割	0.04	0.14	0.15	0.28	0.40	0.26	14.520	0.000
見本	0.08	0.28	0.27	0.42	0.45	0.44	5.162	0.008
合計	36.46	8.86	42.71	7.80	55.24	8.68	28.352	0.000

3群の差が5%水準、あるいは、1%水準で有意だったのは、「不潔」、「貯金」、「承知」、「背中」、「祝日」、「安易」、「強気」、「息子」、「粗末」、「騒音」、「切手」、「気配」、「頂上」、「行方」、「割引」、「返事」、「手間」、「割合」、「勝手」、「風船」、「包丁」、「真似」、「面倒」、「厄介」、「余計」、「手品」、

「乱暴」, 「両替」, 「見事」, 「気分」, 「駄目」, 「退屈」, 「役割」, 「見本」, の 34 語であった。これらの 34 語は日本語習熟度が上がるにつれて、習得が進んでいる語であるということである。

そこで、有意差のある 34 語の語彙的特徴を探索するために、まず、有意差のある 34 語と有意差のない 51 語の語彙特性を確認した。その結果、以下の表 9 のようになった。

表 9 3 群間の通過率の有意差と語彙特性の関係

	(旧)JLPT級 M(SD)	朝日新聞 使用頻度M(SD)	下位群通過率 M(SD)	中位群通過率 M(SD)	上位群通過率 M(SD)	全既習者通過率 M(SD)	未習者通過率 M(SD)	未習者評定値 M(SD)
有意差のない51語	2.78(0.88)	3.51(0.61)	0.54(0.31)	0.57(0.33)	0.64(0.31)	0.58(0.31)	0.13(0.22)	2.63(1.06)
有意差のある34語	2.26(0.51)	3.23(0.58)	0.26(0.23)	0.41(0.26)	0.67(0.24)	0.44(0.23)	0.08(0.18)	2.32(0.93)
全85語	2.58(0.79)	3.40(0.61)	0.43(0.31)	0.50(0.31)	0.65(0.28)	0.52(0.29)	0.11(0.21)	2.51(1.01)

これを見ると、3 群の差が有意だった 34 語は、有意でなかった 51 語と比べて、JLPT の語彙級が高いこと、下位群と中位群は通過率が低いこと、がわかる。一方、上位群においては、34 語と 51 語の間に通過率の差はほとんどない。

そこで、34 語と 51 語の語彙特性の差が統計的に有意であるか否かを確認したところ、有意であったのは、JLPT 級 [$t(83)=3.11, p<.01$], 朝日新聞使用頻度 [$t(83)=2.09, p<.05$], 下位群通過率 [$t(83)=4.51, p<.001$], 中位群通過率 [$t(83)=2.36, p<.05$], 既習者全体通過率 [$t(83)=2.27, p<.05$] であった。一方、上位群の通過率 [$t(83)=-0.583, p=.561$], 未習者の通過率 [$t(83)=1.213, p=.228$], 未習者の推測評定値 [$t(83)=1.336, p=.185$] については、その差は有意でなかった。

以上のことから、3 群の差が有意だった 34 語は、全般的に語彙の難易度が高く、また、新聞での使用頻度が低く、下位群や中位群（とりわけ下位群）は習得が十分に進んでいないものの、上位群は習得が進んでいる語である、と考えられる。

さらに、有意差のあった 34 語について、未習者の通過率を確認したところ、30 語は未習者の方が下位群より通過率が低かったが、4 語については、未習者の方が下位群より通過率が高い語（「不潔」, 「貯金」, 「背中」）や、未習者も下位群もいずれも通過率が 0.00 で同じである語（「手品」）があることもわかった（表 10）。

表 10 未習者の通過率 \geq 下位群の通過率の 4 語

対象語	未習者通過率 M	下位群通過率 M	中位群通過率 M	上位群通過率 M	(旧)JLPT級 M	朝日新聞 使用頻度 M
不潔	0.89	0.50	0.67	0.90	2	2.057
貯金	0.59	0.54	0.65	0.90	2	3.668
背中	0.24	0.13	0.33	0.54	3	3.523
手品	0.00	0.00	0.08	0.24	2	2.428

5.3.2.2 未習者の通過率 \geq 下位群の通過率の4語の特徴

では、この4語、「不潔」、「貯金」、「背中」、「手品」について、それぞれ具体的に見ていきたい。

5.3.2.2.1 「不潔」

まず、「不潔」の未習者の通過率は0.89で非常に高いことがわかる。これは、中国語の知識をそのまま転用することで推測に成功しやすいことを示していると言えよう。なお、下位群や中位群で通過率がやや低めであるが、下位群は24名中12名が無答、また中位群も24名中8名が無答であった。解答している者のみであれば、全員が正答していることがわかった。下位群や中位群については、時間が足りなかったか、あるいは、自信がなかったため無答にした者が多かったであろう。「不潔」は、新聞での使用頻度もあまり高くなく、中国で日本語を学んでいる学習者にとっては、未習である可能性が高い。

中国語との対応を考えてみると、「不」が否定を表す接辞であることから、意味の主要部として推測の要になるのは、「潔」の部分だと思われる。「潔」に対応する簡体字“洁”には、《清洁（清潔）》という意味がある。ただし、中国語では、“洁”は接辞のような拘束形態素として用いられることも多い漢字である。そのため、日本語の「不潔」は、中国語で考えると、接辞+接辞の構造に見えてしまい、語として成立しないことになる。しかし、こうした構造を考慮しなければ、“洁”が《清潔》という意味であることから、《清潔》を表す中国語の“干净”と置き換えて、“不干净”と書けば、正答になる。未習者のほとんどが、このように考えたのであろう、“不干净”と解答している。つまり、漢字の意味から素直に推測した結果、通過率が高くなったと考えられる。また、未習者は理科系の学生であることから、接辞+接辞では語が成立しないというようなメタ言語的知識はそもそも持ち合わせていなかったため、“不干净”と解答した可能性も高い。

一方、下位群や中位群は、接辞+接辞が語として成立しない、もっと違う意味が日本語にはあるかもしれない、と考えすぎてしまい、解答を記述できず、無答になってしまったのではないだろうか。おそらく、学習開始当初は、未習者のように素直に考えて、習得できていた知識が、様々な知識や事例に遭って、複雑な形式が存在することを知ると、知識が混濁してしまい、習得が止まったり、誤用に転じたりするが、その後、習熟度が上がるにつれて、知識が整理され、再度正しく理解、習得できるようになるという現象が生じることがある。この現象は第二言語習得ではよく起こるもので、U字型曲線を描く現象として説明される（Kellerman, 1985）。「不潔」もこのU字型曲線の習得に該当する語だと考えられる。「不潔」には、物理的な清潔さだけでなく、《潔癖さを欠く、みだらな》という意味もあり、「不潔な行為」、「不潔な考え」とも表現できることから、こうした用例に接したことがある学習者の場合、「不潔」の意味領域について十分に理解できていないと考え、解答を控えた可能性もある。

5.3.2.2.2 「貯金」

次に、「貯金」について見てみると、下位群のうち、正答の“存款”、“存钱”、“储蓄”と解答したのは24名中13名で、残りの9名の誤答には、未習者にもあった“定金”（「手付金」）の他は、“手续费”（「手数料」），“租金”（「賃貸料」），“退休金”（「年金」），“养老金”（「年金」）などがあった。これらの解答は、未習者にも、さらに、中位群と上位群にも認められなかった解答である。なぜこのような誤答が下位群から産出されたのかは不明だが、「貯」の中国語“贮”にも＜蓄える＞という意味があることから、老後に備えて蓄えるお金だと推測し、“退休金”や“养老金”を解答した可能性がある。ただし、今回はフォローアップ・インタビューを行っていないため、なぜこのような解答を記述したのか、明らかにすることができないため、推測の過程に関する詳細については、今後の課題として取り組みたい。

5.3.2.2.3 「背中」

「背中」については、身体の一部を示す基本語彙である。新聞での使用頻度も高く、学習者であれば当然習得している語である。しかし、こうした基本語彙ほど、日常生活を日本で送っていない者には、あまりなじみのない語で、習得しにくいこともある。そのためか、上位群でも、半数程度の者しか正答できていない。また、下位群では24名中14名が無答であった。中国語では“背”は動詞として用いられることが多く、“中”は位置を示す語であることから、中国語の知識だけで考えると、単漢字同士の結びつきが理解しにくい。なお、正答の“后背”は、前項漢字の“后”（「後」）が位置を示す語である。このような、日本語と中国語の語構成（漢字の順番）の違いも、推測や習得を困難にする要因と言えよう。誤答を見てみると、未習者で最も多かった誤答は“背后”（「背後」）であった。日本語が「背」＋位置を示す「中」という構成だったため、「中」を「後」と考えて、「背」＋「後」で“背后”（「背後」）と記述したのだと考えられる。

一方、学習者で最も多かった誤答は“背”（「背負う」，“背ける”）であった。中国語の“背”が動詞であることから、「背中」の意味の主要部は「背」にあると考え、「中」の部分を見捨てて推測したのだろう。その他の誤答には、“身高”（「身長」）も多かった。これは「背」を使った語で、学習者になじみがある語が「背が高い」であることが影響していると考えられる。

5.3.2.2.4 「手品」

最後に、「手品」については、まったくの意味不明であったようだ。未習者には無答は4名のみであったが、正答した者はいなかった。未習者の記述を見ると、“手工艺品”、“手工作品”、“手工制品”、“手工品”などの「手工芸品」を表す語、“礼品”、“礼物”、“小礼品”、“伴手礼”など「贈り物」を表す語、“手饰”や“首饰”など「装飾品」を表す語が多かった。

一方、学習者では、通過率が低かった原因は、無答が多かったためである。下位群では24名中21名、中位群では24名中14名、上位群でも21名中8名が無答であった。学習者の誤答の記述を見ると、未習者と同様のものばかりで、学習者だけの誤答はなかった。なお、『日本国語大辞典』で確認

すると、「手品」は<手なみ。腕前のほど>という意味で、『今昔物語集』の中で既に用いられており、これが現在の意味の基になっているようである。さらに、「品玉」という語と連結し「品玉手品」という成句もある。「品玉」は<猿楽、田楽などで演ずる曲芸。いくつもの玉や刀槍などを空中に投げて巧みに受け止めて見せるもの。転じて、広く手品や奇術の類をいう>とある。日本語母語話者であっても、「手品」が<マジック>を表すようになった背景を理解している者は少ないであろう。漢字から意味が導けない、こうした語については、語の成立や起源、歴史的な背景などがわかれば、学習者の理解も容易になり、学習が進みやすくなるであろう。

5.3.3 未習者と学習者の3群の比較

5.3.3.1 計量的分析とその結果

最後に、未習者と学習者の3群の総合的な比較を行う。まず、全体的な傾向を把握するために、未習者1群と既習者3群の全4群を日本語の知識の段階性と捉え、日本語の知識が増えるにつれて、通過率が高くなるか否かを検討するために、相関係数（スピアマンの順位相関）を求めてみた。その結果、85語中、7語を除いて、相関係数が有意であった。なお、有意でなかった7語は、「親類」（ $r=-.032, df=161, p=.683$ ）, 「屋上」（ $r=.139, df=161, p=.076$ ）, 「王女」（ $r=.064, df=161, p=.420$ ）, 「余分」（ $r=.017, df=161, p=.830$ ）, 「月日」（ $r=.125, df=161, p=.111$ ）, 「寸法」（ $r=.037, df=161, p=.641$ ）, 「踏切」（ $r=.130, df=161, p=.130$ ）である。これらのほとんどは、「5.3.1 未習者と学習者の比較」で示した通り、未習者と学習者とで通過率に統計的な有意差のなかった語である。

これらの7語について、4群の通過率をまとめたのが以下の表11である。「親類」, 「屋上」, 「王女」, 「余分」は未習者の通過率が比較的高いものに対して、学習者の通過率は、日本語習熟度が上がっても横ばいであることがわかる。また、残りの「月日」, 「寸法」, 「踏切」は学習者もほとんど習得できておらず、学習者にとっても未知語であると言えよう。

表11 4群の通過率に相関が認められなかった7語

対象語	未習者通過率 M(SD)	下位群通過率 M(SD)	中位群通過率 M(SD)	上位群通過率 M(SD)	学習者通過率 M(SD)
親類	0.72(0.45)	0.67(0.46)	0.63(0.49)	0.76(0.44)	0.68(0.46)
屋上	0.59(0.50)	0.60(0.49)	0.63(0.49)	0.86(0.36)	0.69(0.46)
王女	0.56(0.50)	0.67(0.48)	0.63(0.49)	0.62(0.50)	0.64(0.48)
余分	0.50(0.50)	0.50(0.51)	0.46(0.51)	0.57(0.51)	0.51(0.50)
月日	0.10(0.30)	0.17(0.38)	0.13(0.34)	0.24(0.44)	0.17(0.38)
寸法	0.04(0.20)	0.04(0.20)	0.08(0.28)	0.05(0.22)	0.06(0.24)
踏切	0.00(0.00)	0.08(0.28)	0.00(0.00)	0.05(0.22)	0.04(0.21)

5.3.3.2 相関が認められず、未習者の通過率が高かった4語の特徴

では、「5.3.1 未習者と学習者の比較」で行った未習者と学習者の2群での比較においても通過率に差がなく、未習者に特に通過率が高かった「親類」、「屋上」、「王女」、「余分」について、なぜ未習者の通過率が高かったのか、個別に考察してみよう。

5.3.3.2.1 「親類」

まず、「親類」については、正答として判定した解答は、“亲戚”、“亲人”、“亲属”、“家人”の4語である。そのうち、未習者の30名が“亲戚”（「親戚」）と解答しており、最も多かった。また、学習者でも下位群8名、中位群10名、上位群9名の合計27名が“亲戚”と解答しており、最も多かった。前項漢字の「親」の中国語“亲”には<父母の、親の>という接頭辞としての意味用法がある。また、<血のつながっている、親しい、近い>という形容詞の意味もある。後項漢字の「類」の中国語“类”は、日本語と同様に<性質が同じ、または近いグループ、種類、種族>を意味する。この二つの漢字を修飾関係で繋げれば、<父母の、あるいは、血のつながっている類>となり、そのまま「親類」の意味となり、正しく推測することは困難ではない。

一方、未習者の誤答は、大きく分けて、“一类”(2名)、“同类”(1名)、“相近的门类”(1名)、“相似的类型”(1名)、“相同类别”(1名)のように、<同じ、または類似の型>という意味の語の解答が多かった。学習者からはこうした誤答は全く産出されていなかった。また、未習者からは、“好朋友”(1名)、“亲戚朋友”(1名)のようなく親しい友達、親類縁者>を表す語の記述もあったが、これも学習者にはなかった。いずれも、未習者は、前項漢字の「親」を中国語の<親しい、近い>の意味に同定し、それが後項漢字の「類」を修飾していると考えての解答であろう。学習者では、日本語の「親」が<親しい>の意味で用いられる語があまりないことから、このような誤答の記述がなかったと考えられる。なお、学習者の誤答は、ほとんどが無答で、下位群5名、中位群7名、上位群2名の合計14名であった。

5.3.3.2.2 「屋上」

次に、「屋上」については、正答と判定した解答は“屋顶”、“房顶”、“屋顶上”、“楼顶”、“楼顶上”の5語であった。未習者の正答で最も人数が多かったのは“屋顶”で、36名であった。中国語の“屋”は、<建物としての家>という名詞の意味を持つほか、拘束形態素として<家屋、部屋>を表す。「屋上」を<建物としての家>の「上」の部分であると考えれば、推測は容易であろう。次いで、未習者の解答で多かったのは“房顶”で、12名であった。なお、中国語の“房”も“屋”とほぼ同様に、拘束形態素として<家屋、部屋>を表す。学習者も、最も多かったのは“屋顶”で25名（下位群5名、中位群8名、上位群12名）、次いで“房顶”が19名（下位群7名、中位群6名、上位群6名）で、同じ傾向であった。このように、語の主要部の単漢字の意味が、日本語と中国語がほとんど同じ語については、未習者でも推測は容易なのである。

なお、未習者の誤答は、“楼上”(5名)、“房屋上层(層)”(1名)、“二楼”(1名)、“二层(層)”

(1名)など、<建物・家の内部の上部、上の階>という場所を表す名詞の語が多かった。これらは、いずれも、前項漢字と後項漢字を修飾関係で捉えた推測であるが、“屋”の区切られた空間の中での上部、すなわち<建物の内部の上の部分>と推測したことによる。一方、“房屋上面”(2名)、“房子上”(2名)、“房子上面”(1名)のように、建物内の場所ではなく、<建物の上(の空間)に>という方向を推測した誤答もあった。これは「上」を方位詞として逐語的に訳したもので、特定の具体的な場所は推測できなかったということであろう。学習者においては、こうした誤答の記述はなく、誤答の多くは、無答によるもので、下位群5名、中位群6名、上位群3名の計14名であった。

5.3.3.2.3 「王女」

では、次に、「王女」について考えてみたい。「王女」は、単漢字を組み合わせるだけで、容易に正答が導き出せる語であると言えよう。正答と判定した解答は、“公主”、“王的女儿”、“国王的女儿”、“天皇女儿”の4語である。未習者の解答で最も多かったのは、“公主”で47名であった。学習者もこの解答が最も多く、下位群で16名、中位群で15名、上位群で11名の合計42名であった。

なお、未習者の誤答を見ると、「女」を使った中国語や「女」から推測した語が多かった。例えば、“大女儿”(＜長女＞の意味)(7名)、“女儿”(＜娘＞の意味)(6名)、“长女”(＜長女＞の意味)(2名)、“女士”(女性に対する敬称)(1名)、“女生”(＜女子学生＞の意味)(1名)、“儿女”(＜息子と娘＞の意味)(1名)、“孩子”(＜子ども＞の意味)(1名)“贵族女子”(＜貴族の女性＞の意味)(1名)、“贵妇(婦)”(＜貴婦人＞の意味)(1名)、などである。なお、これらは学習者からは産出されていない。

5.3.3.2.4 「余分」

最後に、「余分」については、正答は“剩余”、“剩下的”、“多余”、“剩余的部分”、“剩下的部分”、“余下的部分”、“剩下的东西”、“剩余的”の8語を認定した。「余分」が名詞とナ形容詞の用法があるため、相当する中国語も多くなったことによる。

日本語の「余」も中国語“余”も、意味はほとんど同じである。中国語では<余る>という意味の動詞、さらに、動詞のメトニミーと考えられる<余った時間>という名詞用法、加えて、<余り>を意味する拘束形態素としても用いられる。「分」については、中国語の“分”では、<分割する、分配する、割り当てる、分ける>などの動詞としての意味と、<分数>を表す意味、さらに、<十分の一>や長さ等の単位などの数量を表す意味で用いられる。名詞としては用いられない。一方、日本語の「分」は、『日本国語大辞典』によると、動詞としても名詞としても用いられるが、名詞では、<分けられた部分>、<その領域・範囲・種類に属する部分>を意味する。よって、「余分」というのは、前項漢字の動詞「余る」が、後項漢字の名詞「部分」を修飾する語構成で、<余った部分>という意味を表す。

未習者で最も多かった解答は、正答の“剩余”が23名、次いで正答の“剩下的”が11名であった。学習者でも最も多かったのも、“剩余”が10名(下位群1名、中位群5名、上位群4名)、次いで

“剰下的”が8名（下位群4名，中位群2名，上位群2名），さらに“多余”が7名（下位群2名，中位群1名，上位群4名）であった。なお，誤答については，未習者も学習者も，無答による誤答が最も多かった。「分」をどのような意味として捉えるかが難しかったのであろう。

5.3.3.3 未習者が誰も推測できなかった語と学習者の習得傾向

最後に，未習者が誰も正しく推測できていなかった35語が，学習者にとって習得しにくい語であるか否かについて示唆を得るべく，下位群，中位群，上位群の通過率との比較を行ったところ，以下の表12のようになった。ほとんどの語で，日本語習熟度が上がるにつれて，通過率が高くなる傾向は認められるが，上位群でも通過率が非常に低い語もある。そこで，確認のために，これらの35語の3群の得点の差を一元配置の分散分析で検討したところ，「手間」，「割合」，「勝手」，「風船」，「包丁」，「真似」，「面倒」，「厄介」，「余計」，「手品」，「乱暴」，「両替」，「見事」，「気分」，「駄目」，「退屈」，「役割」，「見本」の18語は有意差があった。なお，表12で対象語とP値が網掛けになっているのが，その18語である。この18語については，有意差があったということから，未習者は誰も正しく推測できなかったものの，学習者は日本語習熟度が上がるにつれて，少しずつ習得できるようになるということが示唆されよう。なお，この18語のうち，「割合」，「気分」，「駄目」の3語はN4相当の語であるが，それ以外の15語は全てN2相当の語であり，難易度の高い語であることがわかる。

反対に，学習者の上位群であっても，通過率平均が0.3未満の語は，5語ある。「交番」，「踏切」，「為替」，「植木」，「手品」である。「手品」については前述したが，それ以外の語を見ると，辞書的意味を示すだけではわかりにくく，日本の社会文化に関する背景知識や，指示対象となる実物に接触する機会がなければ理解しにくい語が多い。さらに，単漢字レベルの意味が中国語とかけ離れている語もある。

例えば，「交番」は，『日本国語大辞典』では，〈交替して番に当たること〉とある。「交替」の「交」と「番に当たる」の「番」の組み合わせによる語である。一方，中国語の“交”には〈交わる〉，〈渡す〉，〈交替する〉という意味はあるが，“番”は〈異民族〉という意味や，量詞としての使い方しかない。そのためか，未習者は“交”のみから意味推測した者が多かった。未習者の解答で最も多かったのは，“交流”で25名，次いで“交談”（〈語り合う〉の意味）の21名であった。また，学習者で最も多かった解答は，“换班”（〈警官などが勤務を交替する〉の意味）であった（下位群が4名，中位群が6名，上位群が3名）。「交番」の本来的な意味に遠くない解答である。また，“班”の発音が[bān]であり，音の連想もあったのだらう。

また，「踏切」は，無答が最も多く，未習者で16名（17%），下位群で18名（75%），中位群で20名（83%），上位群で9名（43%）であった。「踏切」は，実物そのものを見たことがなければ，辞書の記述を見てもわかりにくい。また，今回の調査実施大学がある都市には，地下鉄や高架で走る高速鉄道はあるが，地上の鉄道を市内で目にするには無い地域である。「踏切」の指示対象そのものを知らなければ，対応する中国語に触れることもなく，さらに，対応する日本語について学ぶこともないであろう。対象者の解答を見ると，最も多かったのは未習者の13名が解答した“踏歩”（〈足踏み

する>の意味)、次いで、“踐踏”(＜踏みつける>の意味)が未習者8名、中位群と上位群がそれぞれ2名ずつ、“踏实”(＜安定している>の意味)が未習者8名、下位群2名であった。“踏”を用いた中国語の解答が非常に多かった。このような解答しか思いつかなかったのは、当然であろう。同様のことは、「植木」についても言えよう。

また、「為替」は中国語相当語は、“汇兑”で、今回は、“票据”(＜手形>の意味)、“外汇”(＜外国為替>の意味)も正答とした。最も多かった解答を見てみると、“代替”(＜代わりをする>の意味)で、未習者28名、下位群3名、中位群3名、上位群2名が記述していた。次いで多かったのは、無答で、未習者5名、下位群13名、中位群8名、上位群3名であった。解答の中で次点だったのは、“替代”(＜代わりをする>の意味)で、未習者20名、下位群1名、中位群2名、上位群1名であった。

中国語では、前項漢字“为”は、＜する、行う>を意味する動詞だが、複合動詞を形成する語として用いられることが多く、軽動詞のような振る舞いをする。後項漢字の「替」の中国語“替”は、動詞で＜代わりをする>の意味である。そのため、意味的な主要部を“替”として、意味推測するしかなかったのだらうと思われる。

以上を総合すると、未習者が正しく意味推測できない語であっても、学習者は、日本語の学習段階や習熟度レベルに応じて、正しく習得できるようになる語が多いものの、日本事情に関する事象を表す語については、日本の社会文化的知識や日本での生活経験などが乏しければ、N1相当の上位群であっても、習得は困難であるということが示唆される。

表 1 2 未習者の通過率が 0.00 の語

対象語	未習者通過率 M(SD)	下位群通過率 M(SD)	中位群通過率 M(SD)	上位群通過率 M(SD)	F(2,66)	p 値
交番	0.00(0.00)	0.15(0.35)	0.17(0.35)	0.14(0.28)	0.036	0.965
荷物	0.00(0.00)	0.85(0.35)	0.77(0.42)	0.90(0.30)	0.803	0.452
風呂	0.00(0.00)	0.48(0.23)	0.56(0.27)	0.67(0.33)	2.568	0.084
切符	0.00(0.00)	0.67(0.48)	0.79(0.41)	0.86(0.36)	1.187	0.312
格好	0.00(0.00)	0.15(0.31)	0.15(0.28)	0.33(0.40)	2.372	0.101
手間	0.00(0.00)	0.08(0.24)	0.10(0.25)	0.33(0.40)	4.649	0.013
割合	0.00(0.00)	0.17(0.38)	0.13(0.34)	0.62(0.50)	9.957	0.000
植木	0.00(0.00)	0.13(0.30)	0.13(0.34)	0.21(0.41)	0.478	0.622
改札	0.00(0.00)	0.17(0.38)	0.33(0.48)	0.48(0.51)	2.565	0.085
勝手	0.00(0.00)	0.21(0.41)	0.50(0.51)	0.86(0.36)	12.422	0.000
我慢	0.00(0.00)	0.83(0.38)	0.92(0.28)	1.00(0.00)	1.990	0.145
為替	0.00(0.00)	0.13(0.34)	0.00(0.00)	0.14(0.36)	1.790	0.175
真剣	0.00(0.00)	0.71(0.46)	0.83(0.38)	0.95(0.22)	2.388	0.100
役人	0.00(0.00)	0.17(0.38)	0.13(0.34)	0.38(0.50)	2.506	0.089
都合	0.00(0.00)	0.35(0.45)	0.58(0.43)	0.67(0.43)	3.115	0.051
風船	0.00(0.00)	0.08(0.28)	0.13(0.34)	0.52(0.51)	8.826	0.000
踏切	0.00(0.00)	0.08(0.28)	0.00(0.00)	0.05(0.22)	0.993	0.376
包丁	0.00(0.00)	0.15(0.31)	0.46(0.49)	0.69(0.46)	9.333	0.000
真似	0.00(0.00)	0.06(0.22)	0.15(0.35)	0.38(0.50)	4.485	0.015
大変	0.00(0.00)	0.56(0.31)	0.65(0.28)	0.74(0.37)	1.700	0.191
派手	0.00(0.00)	0.21(0.25)	0.23(0.29)	0.38(0.27)	2.623	0.080
面倒	0.00(0.00)	0.29(0.46)	0.58(0.50)	1.00(0.00)	17.256	0.000
厄介	0.00(0.00)	0.04(0.20)	0.17(0.38)	0.52(0.51)	9.558	0.000
余計	0.00(0.00)	0.17(0.38)	0.19(0.38)	0.86(0.36)	23.964	0.000
手品	0.00(0.00)	0.00(0.00)	0.08(0.28)	0.24(0.44)	3.784	0.028
乱暴	0.00(0.00)	0.15(0.35)	0.15(0.35)	0.52(0.49)	6.741	0.002
両替	0.00(0.00)	0.08(0.28)	0.25(0.44)	0.45(0.47)	4.669	0.013
見事	0.00(0.00)	0.04(0.20)	0.13(0.34)	0.69(0.46)	23.072	0.000
案内	0.00(0.00)	0.50(0.42)	0.54(0.39)	0.52(0.37)	0.068	0.934
気分	0.00(0.00)	0.50(0.49)	0.71(0.44)	0.86(0.32)	3.993	0.023
駄目	0.00(0.00)	0.29(0.46)	0.67(0.48)	0.81(0.40)	8.005	0.001
芝居	0.00(0.00)	0.73(0.44)	0.44(0.47)	0.48(0.46)	2.825	0.067
退屈	0.00(0.00)	0.04(0.20)	0.33(0.48)	0.60(0.49)	10.254	0.000
役割	0.00(0.00)	0.04(0.14)	0.15(0.28)	0.40(0.26)	14.520	0.000
見本	0.00(0.00)	0.08(0.28)	0.27(0.42)	0.45(0.44)	5.162	0.008

6. おわりに

本研究では、小森他（2018）、小森（2019）を踏まえて行った、日本語未習者 94 名の和製漢語の意味推測を検討した小森（2020）の結果と比較するべく、日本語学習者 69 名を対象に、同じ和製漢語 85 語を対象語として、調査を行った。

その結果、未習者では 1 割程度しか正しく意味推測できなかった和製漢語について、学習者では半

数以上が正しく習得されていることがわかった。また、日本語習熟度に基づいて群分けした下位群、中位群、上位群と、未習者の4群について分散分析や相関分析を行った結果、和製漢語テストの通過率は、未習者<下位群<中位群<上位群で、段階的に上昇することがわかった。さらに、未習者の通過率や未習者の推測評定値は下位群の通過率と相関が認められた。このことから、下位群は習得が不十分な語については、未習者と同様に推測によって補おうとしている傾向も示唆された。

さらに、85語についての分析によって、(1)未習者と学習者とで、通過率に有意な差がある語と、差がない語はおおむね半数ずつあること、(2)未習者の方が下位群よりも通過率が高く、未習者と学習者の通過率に大きな差がない語があること、(3)習熟度が上がっても学習者に段階的な習得が認められない語があること、などがわかった。(1)の未習者と学習者間の差は、語彙難易度の高い語に認められ、難易度の高い語ほど、日本語習熟度の上昇に伴って、通過率が着実に上がっているという現象が認められた。難易度の高い和製漢語については、一般的な習得過程と同様で、学習段階に応じて習得が進むということが言えよう。また、(2)未習者の方が下位群よりも通過率が高く、学習者との差がない語については、「不潔」、「貯金」、「背中」、「手品」などがあった。これらについては、中国語の知識をそのまま当てはめることで未習者が正しく推測できていた一方で、学習者は日本語の多様な知識が影響して、また、十分な習得ができておらず、通過率が低くなっている様子が認められた。さらに、(3)習熟度が上がっても学習者に段階的な習得が認められない語については、「交番」、「踏切」、「為替」、「植木」、「手品」のように、日本事情に関する経験や背景知識がなければ、日本語習熟度が上がっても習得しにくいこと、また、単漢字レベルの意味が中国語と大きくかけ離れている語は習得は容易でないこと、が確認できた。

今後は、本稿で論じていない語について、さらに考察を進め、中国語母語話者の和製漢語の意味推測の過程にどのような知識がどう影響しているのかを、さらに検討していきたい。また、今回は調査対象者のテストへの取り組みの過程を詳細に検討できなかったため、未習者については発話思考法での解答を求める、学習者についてはフォローアップ・インタビューを行う等の方法で、調査対象者の頭の中でどのように言語処理が行われているのか、詳細に検討していきたい。

付記

本研究の準備と実施、さらには、中国語の分析や考察においては、明治大学大学院国際日本学研究科の黄叢叢さんにご協力とご示唆を賜りました。ここに記して感謝申し上げます。

参考文献

- 沖森卓也・木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子 (2011) 『図解日本語の語彙』三省堂。
 加藤稔人 (2005) 「中国語母語話者による日本語の漢語習得―他言語話者との習得過程の違い―」『日本語教育』125, 96-105。
 茅本百合子 (1996) 「日本語漢字と中国語漢字の形態的・音韻的差異が中国語母語話者による日本語漢字の読みに

- 及ぼす影響』『広島大学教育学部紀要 第二部』45, 345-352.
- 桑原陽子 (2012) 「漢字 2 字熟語の意味推測に及ぼす語構成に関する知識の影響—主要部の位置との関わりから—」『福井大学留学生センター紀要』7, 1-10.
- 国立国語研究所 (2006) 『現代雑誌 200 万字言語調査語彙表 公開版』
 < https://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/mag200.html > (最終閲覧日: 2020 年 9 月 28 日)
- 小森和子 (2019) 「日本語の学習経験がない中国語母語話者は和製漢語をどのように意味推測するのか」『明治大学国際日本学研究』11, 101-122.
- 小森和子 (2020) 「中国語母語話者の和製漢語の意味推測」『明治大学国際日本学研究』12, 47-62.
- 小森和子・玉岡賀津雄・斉藤浩信・宮岡弥生 (2014) 「第二言語として日本語を学ぶ中国語話者の日本語の漢字語の習得に関する考察」『中国語話者のための日本語教育研究』5, 1-16.
- 小森和子・早川杏子・三國純子 (2018) 「中国語母語話者は和製漢語を正しく意味推測できるのか—日本語未習者への調査から—」『中国語話者のための日本語教育』9, 69-83.
- 小森和子・早川杏子・李在鎬・玉岡賀津雄 (2017) 「日中対照漢字二字熟語データベースの構築と語彙特性の分析に関する研究」『2017 年度日本語教育学会秋季大会 予稿集』389-394.
- 崔娉 (2015) 「日本語の未知漢字語彙の意味推測に見る中国語を母語とする学習者の推測手がかりの利用—漢字語彙の日中対応関係及び L2 習熟度の観点から—」『言語文化と日本語教育』50, 61-70.
- 小学館国語辞典編集部 (編) (2003) 『日本国語大辞典 第二版』小学館.
- 新潮社 (編) (2007) 『新潮日本語漢字辞典』新潮社.
- 陳毓敏 (2003) 「中国語を母語とする日本語学習者における漢語習得研究の概観: 意味と用法を中心に」『言語文化と日本語教育』増刊特集号, 96-113.
- 陳毓敏 (2009) 「中国語母語学習者の日本語の漢字習得研究のための新たな枠組みの提案—意味使用の一般性と意味推測可能性を考慮して—」『日本語科学』25, 105-117.
- 野口裕之・大隅敦子 (2014) 『テストングの基礎理論』研究社.
- 野村雅昭 (1999) 「サ変動詞の構造」森田良行教授古稀記念論文集刊行会 (編) 『日本語研究と日本語教育』1-23, 明治書院.
- 朴ソンジユ・熊可欣・玉岡賀津雄 (2014) 「同形二字漢字語の品詞性に関する日韓中データベース」『ことばの科学』27, 53-111.
- 早川杏子・于劭贊・初相娟・玉岡賀津雄 (2017) 「日中二字漢字語における客観的音韻類似性指標—主観的音韻類似性指標との比較—」『関西学院大学日本語教育センター紀要』6, 21-34.
- 日向敏彦 (1985) 「漢語サ変動詞の構造」『上智大学国文学論集』18, 161-179.
- 文化庁 (1978) 『中国語と対応する漢語』文化庁.
- 文化庁 (1983) 『漢字音読語の日中対応』文化庁.
- 松下達彦 (2009) 「マクロに見た常用漢字語の日中対照研究—データベース開発の過程から—」『桜美林言語研究論叢』5, 117-130.
- 宮岡弥生・玉岡賀津雄・酒井弘 (2011) 「日本語語彙テストの開発と信頼性—中国語を母語とする日本語学習者のデータによるテスト評価—」『広島経済大学研究論集』36(4), 1-18.
- 茂木俊伸・山口昌也・丸山岳彦・田中牧郎 (2005) 「語種辞書『かたりぐさ』の開発と月刊雑誌の語種構成分析」『言語処理学会第 11 回年次大会予稿集』
 < https://anlp.jp/proceedings/annual_meeting/2005/pdf_dir/P3-15.pdf > (最終閲覧日: 2020 年 9 月 28 日).
- 山田忠雄・柴田武・酒井憲二・倉持保男・山田明雄・上野善三・井島正博・笹原宏之 (編) (2012) 『新明解国語辞典 第七版【机上版】』三省堂.
- 熊可欣・玉岡賀津雄 (2014) 「日中同形二字漢字語の品詞性の対応関係に関する考察」『ことばの科学』27, 25-51.

Kellerman, E. (1985) "If at first you do succeed", in S.M. Gass & C. Madden (Eds.), *Input in Second Language Acquisition*, pp. 345-353, Rowley, MA: Newbury House.

中国社会科学院语言研究所词典编辑室 (编) (2012) 『现代汉语词典 第6版』 商务印书馆.

李行健 (主编) (2014) 『现代汉语规范词典 第3版』 外语教学与研究出版社.